

2023年1月24日

報道関係各位
プレスリリース

株式会社ドリーム・アーツ

【大企業の従業員 500 名に聞いた「契約業務のデジタル化」に関する調査】

9 割が契約業務のデジタル化を推進も、8 割が課題を認識
課題のトップは「各システムが連携されず業務が分断」

～契約業務がワンストップで完了する割合は、現場が最も低く 3 割にとどまる～

大企業向けクラウドサービスのドリーム・アーツ株式会社（東京本社：東京都渋谷区、広島本社：広島県広島市、代表取締役社長：山本 孝昭、以下ドリーム・アーツ）は、従業員数 1,000 名以上の企業に所属する従業員 500 名を対象に、「契約業務のデジタル化」に関する調査を実施しました。

その結果、9 割近く（89.6%）が契約業務のデジタル化に取り組む一方、全ての契約業務がデジタル化されているのは 3 割以下（27.4%）にとどまることがわかりました。また、約 8 割（78.5%）がデジタル化を経ても解決されない課題があると感じている現状も浮き彫りになりました。

調査結果のサマリー

- 01 契約業務のデジタル化に取り組んでいる人は 9 割（89.6%）にのぼる一方、全ての業務がデジタル化されているのは 3 割以下（27.4%）にとどまる
- 02 デジタル化されている契約業務の機能トップ3は「承認ワークフロー」「電子契約・電子署名」「契約書データの保存（文書管理/DB）」
全てにおいて、システム形態は「SaaS」が台頭
- 03 約 8 割（78.5%）が「契約業務のデジタル化を経ても解決されない問題がある」と回答
課題の1位は「各システムが連携されず、業務が分断され非効率」

■調査背景

新型コロナウイルスの感染拡大や 2022 年 1 月 1 日の電子帳簿保存法改正もあり、電子契約など契約周辺業務におけるサービスの導入が加速しています。2022 年 10 月に ITR が発表した「ITR Market View：リーガルテック市場 2022（※1）」によると、電子契約サービス市場の 2021

年度の売上金額は前年度比 56.1%増の 157 億 2,000 万円で、2022 年度も同 46.1%増と引き続き高い伸びが見込まれています。

こうしたなか、ドリーム・アーツでは、現在の契約業務のデジタル化の状況と課題を把握するため、従業員数 1,000 名以上の企業に所属する従業員 500 名を対象にインターネットによるアンケート調査を実施しました。

※1 株式会社アイ・ティ・アール「[ITR Market View：リーガルテック市場 2022](#)」

■契約業務のデジタル化に取り組んでいる人は 9 割（89.6%）にのぼる一方、全ての業務がデジタル化されているのは 3 割以下（27.4%）にとどまる

「リーガルテック※2」という言葉の認知度を問うたところ、5 割以上（55.2%）が「知っている・聞いたことがある」と回答し、認知度は半数以上となりました。契約業務のデジタル化の進捗については、「会社の契約業務がデジタル化されている」と回答した人は 9 割（89.6%）にのぼりました。一方で、全ての契約業務がデジタル化されているのは 3 割以下（27.4%）にとどまり、紙とハンコのみで契約業務を遂行している人は 1 割（10.4%）と、デジタル化されていない契約業務を抱えている割合も依然として高いことが明らかになりました（グラフ 1）。

※2「リーガルテック」：法律が関わる業務の利便性向上を目的とした IT サービス

【グラフ 1：契約業務はデジタル化されているか】



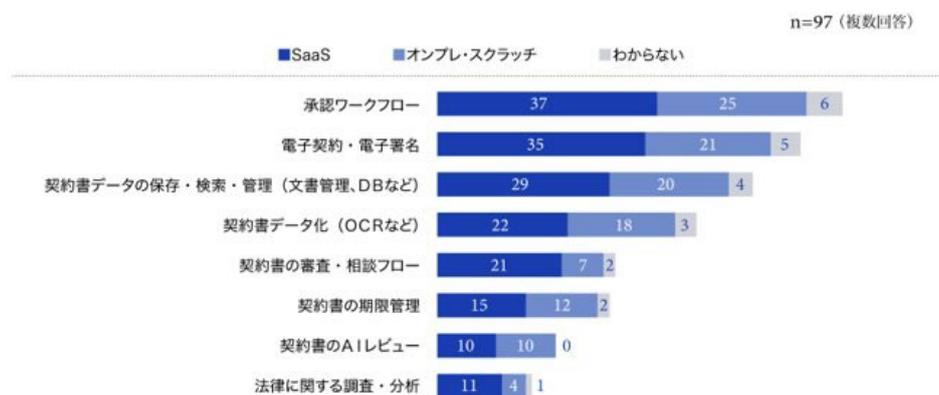
■デジタル化されている契約業務のトップ 3 は「承認ワークフロー」「電子契約・電子署名」「契約書データの保存」、全てにおいて、システム形態は「SaaS」が最多

デジタル化されている具体的な契約業務について聞いたところ、1 位が「承認ワークフロー」、2 位は「電子契約・電子署名」、3 位は「契約書データの保存（文書管理、DB など）」という結果になりました（グラフ 2）。デジタル化されている契約業務の各機能については、全ての項目において「SaaS(Software as a Service)」が最も多く、「オンプレミス・スクラッチ」の割合を上回っていることがわかりました（グラフ 3）。

【グラフ 2：デジタル化されている契約業務】



【グラフ 3：デジタル化済みの契約業務の形態 (IT 部門のみ)】

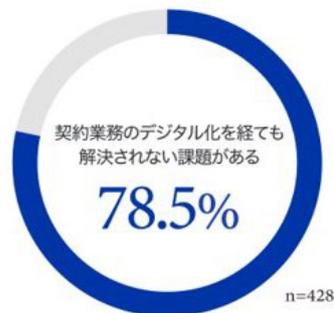


■約 8 割 (78.5%) が「契約業務のデジタル化を経ても解決されない課題がある」と回答

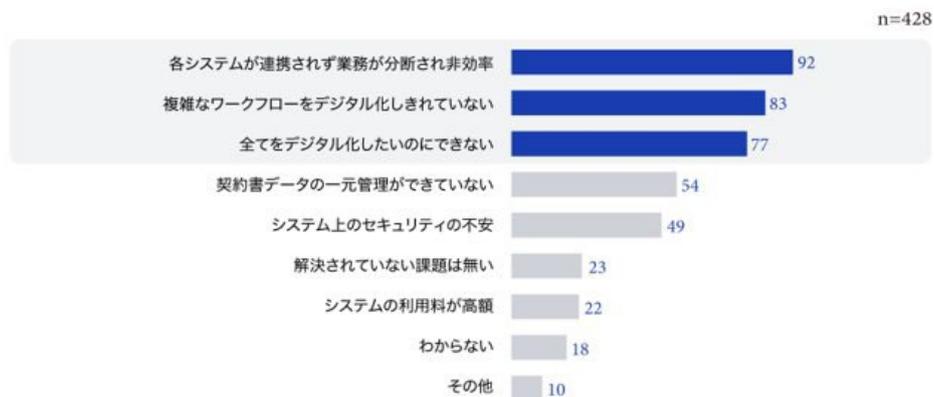
課題 1 位は「各システムが連携されず、業務が分断され非効率」

契約業務のデジタル化の課題について聞いたところ、「契約業務のデジタル化を経ても解決されない課題がある」と回答した人は約 8 割 (78.5%) にのぼることが明らかになりました (グラフ 4)。具体的な課題については、「各システムが連携されず、業務が分断され非効率」、「複雑なワークフローをデジタル化しきれていない」「全てをデジタル化したいのにできない」等が挙げられ、デジタル化だけでは解決できない、複雑に絡み合った課題が浮き彫りになっています (グラフ 5)。

【グラフ 4：契約業務のデジタル化を経ても解決されない課題があるか】



【グラフ 5：具体的な課題】



また、契約業務が開始から終了までワンストップで完了する人は 4 割（40.4%）にとどまる結果となりました。部門別で見ると法務部門と IT 部門では約 5 割（46.0%、50.0%）であるのに対し、それ以外の現場では約 3 割（34.9%）のみとなり、契約業務に関連する各システムの連携が不足しており、現場とそれ以外の部門によって差が大きい傾向が顕著になっています（詳細は調査レポートに掲載）。

■調査概要と資料ダウンロードについて

今回発表した調査レポートの詳細は、以下の URL から無料でダウンロードいただけます。

- 調査レポート「大企業の 500 名に聞いた“契約業務のデジタル化”に関する調査」

<https://www.dreamarts.co.jp/form/dair-wp10/>

[調査概要]

調査対象：従業員数 1,000 名以上の大企業に勤めている従業員 500 名

調査方法：インターネット調査

有効回答数：500名

調査実施日：2022年12月6日（火）～2022年12月7日（水）

ドリーム・アーツは、今後も“協創”を理念に掲げ、「現場力強化」「企業競争力向上」に役立つトータルソリューションを提供してまいります。

株式会社ドリーム・アーツについて <https://www.dreamarts.co.jp/>

1996年12月に設立されたドリーム・アーツは「協創する喜びにあふれる人と組織と社会の発展に貢献する」をコーポレート・ミッションに、「情報共有」と「対話」を重視した独創的かつ高品質なソリューションとサービスを提供します。「協創力を究めよ」のスローガンのもと、ICTだけでも人間だけでもできないビジネス上の難題の解決をICTと「協創」でお手伝いしています。大企業向け業務デジタル化クラウド「SmartDB®(スマートデービー)」、多店舗オペレーション改革を支援する「Shopらん®(ショッピングプラン)」、大企業の働き方を変えるビジネスコックピット「InsuiteX®(インスイートエックス)」などのクラウドサービスを開発・提供しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社ドリーム・アーツ

〒150-6029 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー29F

広報担当 佐藤

TEL：03-5475-2502 / 080-7023-7602 E-mail：pr@dreamarts.co.jp

記載されている会社名および商品・サービス名は各社の登録商標または商標です。

©2023 DreamArts Corporation.